

2023 年度 日本建築学会近畿支部

親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ」 終了報告書

日時：2023 年 8 月 19 日（土）10:00～17:00

場所：学校法人京都建築学園京都建築専門学校

19 回目を迎えた本企画は、小中学生とその保護者を対象とし、京都の町家を支える重要な伝統技術のひとつである「土壁」と町家について学ぶものである。日本建築学会近畿支部と京都建築専門学校が主催し、京都市、京都市教育委員会および京都市景観・まちづくりセンターの後援、京都府建築工業協同組合と京都府左官技能専修学院の協力により実施した。講師は京都建築専門学校の佐野春仁校長および京都府左官技能専修学院の佐伯護学院長に担当いただいた。また京都建築専門学校および京都大学の学生が参加者のサポートのためボランティアとして参加した。

実際に竹小舞を編み、土壁を塗る体験ができることから、今年も例年同様に、定員を大きく上回る応募者があった。抽選を行って 18 組の参加を受け付け、4 組のキャンセルがあったものの、最終的に 14 組 19 名の子どものとその保護者が参加した。

当日は京都建築専門学校の本校舎 3 階教室に集合し、午前 10 時に児玉事務局長からの概要説明と西野常議員による開催挨拶でスタートした。次に岩本常議員から「土壁のひみつ」として土壁の特徴や種類などの紹介があった。写真をふんだんに使った説明に、参加者は大きく頷きながら聞き入っていた。参加者・関係者全員の自己紹介では、日本の伝統的なものや建物に興味があって参加したという子どもたちの声があった一方、自分が土壁を塗ってみたかったので子どもを巻き込んだという保護者もあり、笑いの混じった和やかな進行となった。佐野校長から行事内容の説明を受けた後、全員で会場に移動した。

会場は本校舎 1 階ピロティの作業場で、畳 1 畳分の大きさの 7 台の木枠が用意されていた。佐野校長から竹小舞の編み方の説明が行われ、「まずはやってみましょう」とのお言葉に 1 台 2 組ずつに分かれて作業に取りかかった。最初は手が止まってしまっていた子どもたちも、佐野校長や佐伯学院長の指導とボランティアのサポートを受け、親子で協力して取り組むうちに、竹に藁縄を巻き付けて木枠に固定していく作業に次第に熱中し、黙々と手を動かしていた。晴天に恵まれて日陰でも汗ばむ暑さであり、お茶休憩を挟みつつ、1 時間ほどでそれぞれの小舞が完成した。

昼食後は佐野校長の案内で、参加者が 2 班に分かれて京都建築専門学校よしやまち町家校舎を見学した。よしやまち町家校舎は古い長屋を改修したもので、聚楽土の壁、北山杉の床柱、檜の一枚板の床の間など、京町家について実際に学ぶことができる。子どもたちは建具の奥に隠された階段に歓声を上げ、炉の切られた畳を踏んではいけないと教えられて恐々畳をまたぎ、保護者も熱心に写真を撮りながら見学を楽しんだ。

午後からは竹小舞に土を塗る荒壁塗りに挑戦した。佐野校長から鋺と鋺板の使い方・壁の

塗り方の説明を受け、佐伯学院長から道具を受け取った参加者は、再び1台2組ずつに分かれて作業に取り組んだ。ボランティアの学生たちも作業に加わった。土を落としてしまったり、午前中に編んだ竹小舞に大きなすき間ができていたせいで土が付かない部分があったりと苦労しながらも、大人も子どもも泥にまみれながら荒壁を完成させていった。だんだんと鍬の扱いに慣れていく子がいる一方、途中から鍬を使うのをやめて手で土を塗ることに夢中になる子どももいて、完成後に「まだ塗り足りない」という声が聞かれた。1時間強の作業のあと、佐伯学院長に中塗りの実演をいただいた。子どもたちが至近距離から熱心に見守る中、佐伯学院長はスピード感のある熟練の動きで2度の塗りを終えた。佐伯学院長から本日の作業について講評をいただき、全員で記念撮影をした。

作業終了後は本校舎3階の教室に戻り、お茶・お菓子が配られた。参加者アンケート記入の後、参加者全員が一言ずつ感想を述べたが、職人さんはすごいと思ったという声が多く寄せられたのが印象的だった。次にボランティアの京都大学の学生（大路峻生さん、周戸南々香さん、里中栄貴さん）が達者な手描きのスケッチを元に一日の作業の振り返りを行った。さらに小見山常議員から子どもたち全員にシリアルナンバーと土壁の前で撮った本人の写真入りの修了書が授与され、19名の「ちびっこ親方」が誕生した。最後に山崎常議員からの全体講評と佐野校長からの閉会挨拶を受け、散会となった。

関係者・ボランティアの尽力により、今年も建築と伝統技術を身近に感じてもらえる充実した内容の教室を開催することができた。

日本建築学会近畿支部 常議員
西野佐弥香、小見山陽介、岩本馨、山崎泰寛

